

目 次

こども福祉科 保育士コース 1年

A 厚生労働省指定科目

*…豊岡短期大学通信授業科目との合同授業。
豊岡短期大学通信教育部シラバス参照のこと。

教養科目

心理学	渡 辺 舞	3
* 英語コミュニケーションⅠ	澤 田 麻 理	
* 健康科学	安 田 謙 一	
* スポーツ（実技）	安 田 謙 一	

専門的科目

保育原理	藤 田 留 美	4
* 教育原理	谷 口 知 弘	
こども家庭福祉	長 谷 あ ゆ み	5
社会福祉論	池 田 ひ ろ み	6
社会的養護Ⅰ	大 場 信 一	7
* 教職論	明 田 川 知 美	
発達心理学	渡 辺 舞	8
こどもの発達と家庭支援	渡 辺 舞	9
* 教育課程論	高 橋 裕	
* 保育内容総論	早 坂 聡 子	
こどもの指導法「人間関係」	藤 田 留 美	10
こどもの指導法「言葉」	藤 田 留 美	11
こどもの指導法「リズム表現Ⅰ」	房 田 里 枝	12
こどもの指導法「造形表現」	矢 元 政 行	13
* こどもの指導法「音楽表現Ⅰ」	折 笠 美 穂 田 中 智 子	
こどもと造形	矢 元 政 行	14
* 表現とこどもの運動	廣 田 邦 生	
こどもの指導法「言語表現」	後 藤 優	15
乳幼児保育Ⅰ	谷 内 智 美	16
障害児保育Ⅰ	千 葉 桂 子	17
保育実習Ⅰ（施設）	藤 田 留 美	18
保育実習Ⅰ（保育所）	谷 内 智 美	19
保育実習指導Ⅰ・対策Ⅰ（施設）	藤 田 留 美	20
保育実習指導Ⅰ・対策Ⅰ（保育所）	谷 内 智 美	21
* 造形表現論	矢 元 政 行	
こどもとリズム表現Ⅱ	房 田 里 枝	22

こども学概論	千葉 洸 太		23
* 音楽表現論	田 中 智 子		
保育制作Ⅰ	谷 内 智 美		24
こどもと音楽表現Ⅴ	折 笠 美 穂		25
	田 中 智 子		
手話Ⅰ	札幌聴覚障害者協会		26
	(河 村 明 子)		
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	佐々木 尚 代		27
児童館・放課後児童クラブの	白 谷 臣 子		28
活動内容と指導法Ⅰ			
児童館実習	谷 内 智 美		29

A 本校独自科目

応対論Ⅰ	三品 あおい		30
国語総合演習Ⅰ	浦田 日出雄		31
就職ガイダンスⅠ	長 屋 敦 志		32
児童館実習指導	谷 内 智 美		33

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
心理学	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞	－	
科目のねらい		
心理学の基本的理論として、「心理学の領域と研究方法」「感覚・知覚」「学習・記憶・思考」の 3 つの領域について理解を深めていきます。		
到達目標		
1. 心理学の研究方法を学び、説明できるようになる。 2. 人のこころの基本的なしくみについて学び、説明できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80％・プリント提出 10％・授業への参加度 10％		
授業計画表		
1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／心理学とはなにか？ 2. 心理学の領域と研究方法／心理学を理解する 3. 感覚・知覚の心理学／見ること・聞くことのしくみを理解する 4. 学習・思考の心理学 1／動物実験から行動のしくみを理解する 5. 学習・思考の心理学 2／問題解決から思考のしくみを理解する 6. 記憶の心理学 1／記憶実験から記憶のしくみを理解する 7. 記憶の心理学 2／おぼえること・忘れることのしくみを理解する 8. 「心理学」のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
上長然・武田英樹『教育心理学』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配布する。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	講義
科目名	授業回数	授業時間
保育原理	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田留美	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
・ 保育所保育指針の内容を理解し、基本を踏まえた保育の展開や保育の質と 専門性の向上について学ぶ。 ・ 保育の歴史的背景から、現状と課題を考察し、多様な保育ニーズについて理解を深める		
到達目標		
・ 保育の意義及び目的について理解する。 ・ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ・ 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ・ 保育の現状と課題について理解する		
受講の心構え		
・ 保育の基礎・基本となる授業です。主体的な学びになることを期待しています。 ・ プリントを配布します。ポケットファイル(40 ポケット程度)又はフラットファイルを用意してください。		
成績評価基準		
科目評価試験(80%)と授業への取り組み姿勢・提出物(20%)で総合的に評価する		
授業計画表		
1. オリエンテーション／保育所保育に関する基本的事項 2. 保育の目標と方法①～生きる力と未来をつくり出す保育 3. 保育の目標と方法②～保育の環境 4. 保育の思想と歴史的変遷① 5. 保育の思想と歴史的変遷② 6. 子どもの発達～発達の特性 7. 保育所保育の特性～養護と教育 8. 幼児教育を行う施設としての考え 9. 保育の内容①～乳幼児の保育に関わるねらい及び内容 10. 保育の内容②～1 歳以上 3 歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 11. 保育の内容③～3 歳以上児の保育に関するねらい及び内容 12.保育の計画及び評価 13.子どもの健康と安全 14.保育者の専門性と倫理観 15.授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
「内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』フレーベル館」 「『保育原理』豊岡短期大学」 その他、毎時間プリントを配布します		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	講義
科目名	授業回数	授業時間
こども家庭福祉	15 回	30 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長谷 あゆみ	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
現代社会における、こどもの家庭福祉を学びます。 「社会で子どもを育てる」という観点に立ち、こどもの福祉の現状と課題・実際の援助やケアのあり方を学び、保育の重要性を理解していきます。		
到達目標		
1, 権利を持つ「主体としての子ども」観の構築と子ども理解を深める。 2, 子どもを取り巻くさまざまな課題と現状を学ぶ 3, 実際の援助・社会資源・法制度などを学び、専門性につなげる。		
受講の心構え		
子どもの福祉を考える時に欠かせない内容となっています。子ども理解とケア・実際の援助に活かせるように積極的に学ぶ姿勢を期待します。 配布されるレジメ・資料のファイリングを必ずして下さい。		
成績評価基準		
レポート・筆記試験（70％） 授業の取り組みや態度（30％）		
授業計画表		
1, オリエンテーション／自己紹介／家庭福祉の意義 2, 子どもの人権と権利擁護／子ども観の歴史的変遷 3, 児童福祉六法 4, 子どもの福祉を図るための社会資源 ①児童相談所 5, 子どもの福祉を図るための社会資源 ②子どもの福祉施設 6, 子どもの福祉を図るための社会資源 ③児童養護施設 7, 保育士の役割／保護者と良い関係を作るために・保護者理解 8, 保育士の役割／子どもとの関係作り・子どもへの対応とケア・子ども理解 9, 子どもを取り巻くさまざまな困難－ハイリスク要因・子どもの虐待・貧困など 10, 前半のまとめ 11, 事例検討から学ぶ他機関との連携／さまざまな専門職 自己理解を深める 12, 保育におけるソーシャルワーク／アンガーコントロール 13, これまでの復習／児童虐待防止法・社会的養護のこれからの展望 14, セルフケア／対人援助職についての総括 15, まとめ		
「豊岡短大 豊岡短期大学指定テキスト『こども家庭福祉』（豊岡短大） その他、随時授業時に資料を配布。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会福祉論	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
池田ひろみ	－	
科目のねらい		
日本の社会福祉について全体像を理解する。 社会福祉の理念と基本的な知識を理解する。 自分達の身近な問題・課題を社会福祉の視点で考える習慣を身につける。		
到達目標		
社会福祉の基本知識を理解し、自身の仕事や生活に役立てる。 現代日本の子どもやその親・家族の状況について理解し、客観的に分析する力を養う。 社会福祉の専門用語・法律・制度を正しく理解する。		
受講の心構え		
配布資料はファイリングして全授業に持参すること。 自分の意見や感想を的確に表現して他者に伝える努力をすること。		
成績評価基準		
授業内の課題 30%、授業内の発言内容と態度 30%、筆記試験 40%		
授業計画表		
1. 自己紹介とオリエンテーション 社会福祉の基本知識 自分にとっての福祉 2. 基本的人権の尊重と生存権 3. 日本国憲法と社会福祉の法律・制度 その 1 4. 日本国憲法と社会福祉の法律・制度 その 2 5. 児童福祉の制度とサービス 6. 現代日本の子どもを取り巻く状況 子ども家庭福祉の考え方 7. 子どもの貧困の実態、その解決に向けた方策 8. ひとり親家庭の現状と子育て支援 9. 児童虐待防止と早期発見・早期対応 10. 子どもの権利と権利擁護 11. 障害児・者の現状と制度・サービス 12. 社会福祉の専門職の役割 13. 相談援助の技術：傾聴の大切さ 14. 専門職としての子どもと親・家族への関わり方 15. まとめ 自分にとっての社会福祉を考える		
使用テキスト・参考文献		
『社会福祉論』豊岡短期大学 授業中に適宜新聞記事等を配布します。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会的養護 I	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
大場信一	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
期待される保育者になるために必要とされる社会的養護の基礎知識、専門性、倫理・価値観を身につける		
到達目標		
社会的養護の歩んできた歴史を踏まえ、大きく変わりつつある現在の状況、課題、今後の見通しを理解する		
受講の心構え		
子ども、家庭が直面している課題に関心をもつ		
成績評価基準		
中間ふりかえりテスト及び期末テストにより種に評価するが、出席状況と授業態度も考慮する		
授業計画表		
1 オリエンテーション 2 こども・家族・子育て家庭を取り巻く状況 3 社会的養護（社会的養育）とは 4 社会的養護の理念 5 社会的養護の歴史的変遷 6 子どもの人権 7 社会的養護の基本原則 8 社会的養護にかかわる法体系 9 社会的養護にかかわるシステムと制度 1 0 社会的養護にかかわる専門職と専門機関及び専門職の構成要件 1 1 社会的養護を担う家庭養護、家庭的養護、施設養護の内容 1 2 社会的養護の対象 1 3 被措置児童虐待の現状、課題とその対応 1 4 社会的養護が担う地域支援 1 5 まとめ及びテスト		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短期大学指定テキストを使用、必要に応じ配布資料作成		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
発達心理学	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞	－	
科目のねらい		
各発達段階での特徴的なところとからだの発達に注目していきます。 「新生児期・乳児期」「幼児期」「児童期」「青年期」の発達段階別に理解を深めていきます。		
到達目標		
1；生涯発達の観点から人のところとからだの発達を理解し、説明できるようになる。 2；乳児期と幼児期の特徴について重的に学び、保育現場で活用できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80％・プリント提出 10％・授業への参加度 10％		
授業計画表		
1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／発達の考え方の基本 2. 生涯発達心理学 1／受精から死までを「発達」と捉える考え方の理解 3. 生涯発達心理学 2／生涯発達の考え方とライフステージの理解 4. 新生児から乳児期の発達心理 1／赤ちゃんの見ている世界の理解 5. 新生児から乳児期の発達心理 2／赤ちゃんの形態的・機能的発達 6. 乳児期から幼児期の発達心理 1／ことばの発達 7. 乳児期から幼児期の発達心理 2／愛着と自己意識の発達 8. 乳児期から幼児期の発達心理 3／情緒と愛着の発達 9. 乳児期から幼児期の発達心理 4／思考と遊びの発達 10. 児童期の発達心理 1／家庭から学校への環境移行 11. 児童期の発達心理 2／仲間関係の発達 12. 青年期の発達心理 1／思春期の心理的特徴 13. 青年期の発達心理 2／アイデンティティと青年の自立 14. 青年期から成人期への移行／身体的・心理的变化の理解 15. 発達心理学のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
上長然『発達心理学』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配布する。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの発達と家庭支援	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞	－	
科目のねらい		
「こどもの発達課題」「親子関係と家族関係の発達」「こどもの心の健康」「家庭支援の方法」の 4 つの領域について、こどもと家庭および子育て支援に関する内容を包括的に学んでいきます。		
到達目標		
1. こどもの発達について学び、保育現場で活用できるようになる。 2. 家庭支援の重要性を学び、保育現場で活用できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80％・プリント提出 10％・授業への参加度 10％		
授業計画表		
1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／生涯発達を理解する 2. 乳児期から幼児期の発達の特徴／基本的生活習慣の習得を理解する 3. 児童期の発達の特徴／こどもの人間関係を理解する 4. 青年期から成人期の発達の特徴／親としての発達を理解する 5. 成人期から老年期の発達の特徴／こどもの自立と人生の締めくくりを理解する 6. 家族と家庭の意義と役割／家族の範囲と家庭の役割を考える 7. 子育て家庭を取り巻く現状 1／社会状況と家庭の変化を理解する 8. 子育て家庭を取り巻く現状 2／社会状況の変化を踏まえて支援を考える 9. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 1／ひとり親家庭 10. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 2／児童虐待 11. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 3／DV 家庭への支援 12. こどもの個性の理解と支援 1／パーソナリティの捉え方と測定の基本を理解する 13. こどもの個性の理解と支援 2／発達の測定と支援を理解する 14. 保育カウンセリング／子育て相談場面でのコミュニケーションを理解する 15. 「こどもの発達と家庭支援」のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
室谷雅美『こどもの発達と家庭支援』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配布する。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもの指導法「人間関係」	8 回	15 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	授業内容に関わる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
子どもと関わる保育者自身の「人と関わる力」を見つめ直す一方で、乳児期・幼児期の人間関係がどのように育っていくのかを学び、必要な援助のあり方を考えます。		
到達目標		
・ 保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいと内容について深く読み取り、理解する。 ・ 発達過程を踏まえ子どもを取り巻く様々な人との関係について考え、保育者の役割を理解する。		
受講の心構え		
人と人とのかかわりを問い直す授業です。積極的に授業に参加してください。 プリントをまとめるファイルを用意してください。		
成績評価基準		
授業態度、提出物など総合的に評価します。		
授業計画表		
1 オリエンテーション 保育所保育指針における「人間関係」 2 人間関係の育ち① 乳児期における「人とかかわる力」 3 人間関係の育ち② 1 歳以上 3 歳未満児における「人とかかわる力」 4 人間関係の育ち③ 3 歳以上児における「人とかかわる力」 5 子育て支援と家庭とのかかわり 6 「人間関係」と保育者の援助① 「計画と環境構成」 7 「人間関係」と保育者の援助② 「計画の実施」 8 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
フレーベル館「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」 プリントを配布しますので、まとめておいてください。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもの指導法「言葉」	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
言葉を理解していない乳幼児に対して、保育者がどのように言葉の理解と成長を支援するのかを考え、適切な言葉の指導ができるようになることを目標とする。併せて、乳幼児期における言葉の大切さを理解する。		
到達目標		
・ 保育所保育指針における領域「言葉」のねらいと内容について深く読み取り、言葉を獲得していく過程の基礎的な理解を深める。 ・ 言葉の育ちを支える児童文化財について具体的に学び、活用法と実践力を身につける		
受講の心構え		
乳幼児の言葉の発達には、保育者自身の言葉が大きく影響することを自覚してください。また、子ども達に読んであげたいお気に入りの絵本を 1 冊見つけてください。		
成績評価基準		
授業への取り組み 20% 提出物・科目終末試験 80%		
授業計画表		
1. オリエンテーション 保育内容「言葉」の意義 2. 子どもの言葉の発達～言葉のめばえ～ 3. 子どもの言葉と環境～話し言葉と書き言葉～ 4. 保育者の指導・支援～0 歳児から 6 歳児の言葉と保育者のかかわり～ 5. 配慮を必要とする子どもへの言葉の指導・支援 6. 言葉の発達と児童文化財～素話・絵本・紙芝居・言葉遊びなど～ 7. 言葉の発達と児童文化財の活用方法 8. 授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
駒井美智子編「保育者をめざす人の保育内容『言葉』」みらい 保育所保育指針「平成 29 年告示」（フレーベル館） 保育所保育指針「平成 29 年告示」解説書（フレーベル館） 授業時にプリント配布		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	年次
こども福祉科 保育士コース	1 年	演習
科目名	授業形態	授業回数
こどもの指導法「リズム表現Ⅰ」	演習	8 回
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 保育内容を理解し、音楽表現遊びや身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を学ぶ 2. 音楽と身体で自分自身を表現し、保育者としてのあり方を考える。		
到達目標		
こどもの活動は様々な領域から成り立つことを踏まえ、他の領域の知識や技術と関連させながら保育の中でこどもにとっての表現とは何かを探っていく。		
受講の心構え		
保育士を目指すにあたって、表現する楽しさや面白さを感じ、人前に立つ経験や体験を通して自分なりの表現方法や新しい可能性の視野を広げる。		
成績評価基準		
個人評価、グループ発表の評価40％ 技術、工夫30％ 学習意欲、積極性、出席率30％		
授業計画表		
1. オリエンテーション 音楽によって表現される様々な方法を学ぶ (歌など、音楽に合わせて表現する楽しさを体験する) 2. 身体表現の実践(基礎的な動作から、様々な表現の仕方を学ぶ) 3. 絵本から学ぶ。絵本付属のCDをかけて音楽を通して物語の世界観を体験する 図書室にある絵本に触れ合い、読む楽しさを学ぶ 4. 手作り楽器の製作(遊び方や遊ぶにあたっての注意点を学ぶ) 5. 楽器遊びと、手作り楽器の演奏 6. 季節の歌や行事の歌、手遊びの実践を通して自分たちなりの方法を見出し 表現をする力を身につける 7. チーム毎、発表に向けての練習 8. チーム毎に発表し、評価する。		
使用テキスト・参考文献		
小林美実『こどものうた200』チャイルド本社 小林美実『続こどものうた200』チャイルド本社		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもの指導法「造形表現」	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢元政行	－	
科目のねらい		
こどもの発達段階を基盤とした造形的な表現の特徴を理解する。「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材を通じて、描画材の特徴の理解及び描画表現技法の習得と活用、素材を用いた立体物や玩具等の製作、身の回りの自然物や廃材などを使った造形活動を行う。また、その活動にあたり、環境構成を踏まえた指導計画案の作成や、指導、援助のあり方についても学習を深める。		
到達目標		
・ 幼児の造形活動の大切さと表現にともなう形、色、素材、手法について理解できる。 ・ えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の造形活動の内容と指導・援助のあり方を学び保育者としての知識と技術を習得できる。		
受講の心構え		
授業では造形活動の楽しさを感じてください。配布資料はファイリングし、演習後は教材の内容や感想を提出してもらいます。		
成績評価基準		
製作課題 6 0 %、プリント提出 2 0 %、出席点授業姿勢 2 0 %		
授業計画表		
1.表現領域のねらいと内容、幼児の造形表現の意義について 2.えがく領域（スクラッチとバチックを使っての表現） 3.えがく領域（マーブリングであそぶ） 4.つくる領域（折り紙を楽しむ） 5.つくる領域（びっくりカップをつくる） 6.造形あそびの領域（光であそぶ） 7.造形あそびの領域（カラーセロハンを使ってスタンドグラスをつくる） 8.まとめ		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短大『造形表現論』（配本テキスト） 鶴留見裕子『おりがみよくばり百科』ひかりのくに」 毎回授業開始時に資料を配布		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと造形	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢元 政行	－	
科目のねらい		
幼児造形の指導・援助者として造形の基本的な理論を理解する。造形活動の展開と指導・援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得する。えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の表現方法についての知識や技術について体験的に学習する。		
到達目標		
・ 幼児造形教育の指導・援助者として必要となる造形の基礎的な知識及び技能について理解できる。 ・ えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な表現技法について習得できる。 ・ 教材研究及び作品発表を行うことで思考力や表現力を高める。		
受講の心構え		
授業では造形活動の楽しさを感じてください。配布資料はファイリングしてください。演習後は授業の取り組み、教材の感想等を提出してもらいます。		
成績評価基準		
製作課題 6 0 %、プリント提出 2 0 % 出席点授業姿勢 2 0 %		
授業計画表		
1 幼児造形教育の重要性と研究の視点について 2 絵画の基本的な技法及び描法（植物をかく）について 3 えがく領域における製作（各種表現技法を用いた製作） 4 立体造形における技法と活用について（小麦粉粘土の製作） 5 つくる領域における製作（ポップアップカードの製作） 6 造形あそびにおける技法と活用について（素材・廃材を活用した造形あそび） 7 造形あそび（グループ）の領域における製作（新聞紙を使って服をつくる） 8 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短大『造形表現論』（配本テキスト） 鶴留見裕子『おりがみよくばり百科』ひかりのくに」 毎回、授業開始時に資料を配布		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの指導法「言語表現」	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
後藤 優	－	
科目のねらい		
本講義では言語表現の一分野を成す児童文化財のうち、絵本を含む児童文学を取り上げる。児童文学は「子どもを健全な社会的人間に育て導いて行くことを窮極の目的」（上筆一郎『児童文学概論』東京堂出版 昭55）としていると言われる。児童文学について、その歴史、形式、特徴などを概観する。		
到達目標		
児童文学がどのように生まれ発展してきたか、基礎的な知識を身につける。自身が興味を持った作品を深く理解するため、児童文学研究に必要な知識の習得だけでなく、保育者となった際に、子どもと児童文学の出会いの機会を作るためにどうしたらよいかを考え、実践的方法にも関心を持てるようになる。		
受講の心構え		
テキストは指定しないが、講義内で取り上げた書籍等については積極的に読むことを勧める。また、高等学校までのようなまとまった板書はとらないので、各自が話をよく聞きノートをとるようにすること。		
成績評価基準		
レポート課題、及び試験を各一回課す。レポート 40%、試験 60%。		
授業計画表		
1.講義概要説明、及び「児童（子ども）」の発見① 近代の「子ども」観はどのように見出されたか。 2. 「児童（子ども）」の発見② 近代の「子ども」観はどのように見出されたか 3.児童文学概論 「児童文学」たる条件を考え、これまでになされてきた定義について考える。 4.児童文学史 昔話（再話）から童話（創造）へ。グリム童話とアンデルセン童話。 5.児童文学の形式 伝承文芸の時代（昔話の分類と再話・再創造） 6.日本の児童文学史 明治時代：巖谷小波とお伽噺 大正時代：鈴木三重吉と童話雑誌『赤い鳥』。童心主義の提唱。 7.「童話」概論 8. 講義総括		
使用テキスト・参考文献		
特に指定しない。参考文献については講義内で適宜紹介する。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	講義
科目名	授業回数	授業時間
乳幼児保育Ⅰ	15 回	30 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
子どもがこれからの未来を生きていくうえで、保育士は人としての基礎作りとなる重要な時期に関わるようになります。「乳幼児」おもに 3 歳未満児の発育・発達の理解を深め、乳幼児保育における保育者の役割について理解を深めます。		
到達目標		
・発達、発育を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し計画を立てる。 ・沐浴人形を使用した実技を通し、実際のケアを身につける。 ・多様な保育現場における乳幼児保育の現状と課題を把握する。 ・乳幼児保育における職員間の連携・協同の意義を理解し自身の課題を明確にする。		
受講の心構え		
2 年次も引き続き学ぶ教科となります。配布プリントは 2 年間継続したファイリングを求めます。日々の関わり大切さを一緒に考えていきましょう。		
成績評価基準		
授業への取り組み、提出物、筆記試験 で総合的に評価します。 意欲的な授業への参加を期待します。		
授業計画表		
1 オリエンテーション・乳幼児保育の意義と役割 2 乳児保育の歴史的変換 3 乳幼児保育における養護と教育 4 保育所における乳幼児保育①「0 歳児クラスの保育と実際の関わり」 5 保育所における乳幼児保育②「0 歳児クラスの保育と実際の関わり」 6 乳児ケアの実際①「抱っこ」「おんぶ」 7 乳児ケアの実際②「排泄」 8 保育所における乳幼児保育③「1 歳以上 3 歳未満児クラスの保育と実際の関わり」 9 3 歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境① 10 3 歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境② 11 3 歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境③ 12 家庭的保育・小規模保育における乳幼児保育の現状と課題 13 乳幼児保育における保育者の業務と役割 14 乳幼児保育における職員間の業務と役割 15 授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
・授業時にプリントを配布します ・寺田清美・大方美香・塩谷香『乳児保育Ⅰ・Ⅱ新・基本保育シリーズ⑮』中央法規 ・『乳幼児保育Ⅰ』（豊岡短期大学）		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障がい児保育Ⅰ	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 桂子	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
障がいについて知る。障がい児を取り巻く現状を知る。障がい児保育における保育士の役割を理解する。		
到達目標		
障がいとは何かを知る。障がい児を取り巻く状況や環境について理解し、支援現場における保育士の役割について理解する。		
受講の心構え		
現在は保育の現場に障がいのある児がいることが一般的です。現場での状況を伝えるとともに、実技も取り入れ学んでもらいます。毎回配布する資料は必ず A4 ファイルに閉じてください。確認のため、ミニレポートを毎回提出してもらいます。		
成績評価基準		
まとめのテスト 60%、小テストとミニレポート 20%、出席及び授業姿勢 20%		
授業計画表		
1.障がいとは何か（障がいがあるとは？障がい観の変化） 2.障がいの捉え方（障がい児保育の歴史と現状） 3.障がいの特性と支援方法（視覚障がい、聴覚障がい） 4.障がいの特性と支援方法（言語障がい、肢体不自由） 5.障がいの特性と支援方法（知的障がい） 6.障がいの特性と支援方法（発達障がい） 7.障がいのある子どもの発達と環境 8.まとめ		
使用テキスト・参考文献		
使用テキスト 西村重稀・水田敏郎『新基本保育シリーズ 17 障害児保育』中央法規 ・毎回、資料配布 ・参考文献は、必要に応じ授業時に提示		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習指導 I (福祉施設)	11 日間	90 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田留美	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
現場体験を通じて施設保育士として仕事をする上で必要な知識を学び求められる援助技術の内容を理解する。講義・演習で学んだ知識に基づいて利用児(者)との関わりを深め、利用児(者)が求めている社会福祉の需要に関する理解力・判断力を養う		
到達目標		
1. 実習指導者の指導を受けながら業務の進め方や記録の方法について学び、実習期間中、施設等において、チームの一員として活動する能力を養う。 2. 利用児(者)を理解し、そのニーズを把握する能力を高める。 3. 利用者や関係者への支援の実践を学び、技術を身につける。		
受講の心構え		
初めての施設実習ですが、職員や利用者・子どもたちから多くのことを学べるように素直に謙虚な姿勢で積極的に取り組みましょう。		
成績評価基準		
実習施設からの評価・実習日誌等の記録物、実習報告等を総合的に評価する。		
授業計画表		
実習先 ①児童養護施設 ②障がい者支援施設 ③福祉型障害児入所施設 ④児童発達支援センター 等 実習期間 令和 5 年 11 月 20 日(月)～令和 5 年 12 月 5 日(火) ※期間内 11 日間 80 時間以上		
使用テキスト・参考文献		
本校作成『実習の手引き』		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅰ（保育所）	11 日	90 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 保育所の役割、機能等を実際の現場で体験を通して理解する。 2. 既習の教科全体の知識・技術等の課題を明確にする。 3. 次年度に向けての必要な知識・技術等の課題を明確にする。		
到達目標		
1. 実習園について理解する。 2. 保育所の一日の流れを保育に参加する中で理解する。 3. 保育士や子どもとの関わりを通して、乳幼児を理解する。 4. 生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 安全な環境を確保するにあたっての配慮について学ぶ。		
受講の心構え		
入学して初めての实習です。実際に子どもに触れ、現場を知ることができる機会を大切に、前向きに学んでください。		
成績評価基準		
実習評価、実習出席状況・提出物を総合的に評価する。		
授業計画表		
〔実習先〕 札幌市内及び札幌市内近郊保育所 〔実習期間〕 令和 5 年 10 月 4 日(水)～令和 5 年 10 月 18 日(水) 【期間内で 11 日間】		
使用テキスト・参考文献		
・実習の手引き ・その他必要な資料		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習指導Ⅰ(福祉施設)・保育実習対策Ⅰ(福祉施設)	16 回	30 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田留美	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識・技術を具体的に実践場面で活かすための態度や姿勢を身につけ、実習準備を行う。 2. 実習における実践学習をフィードバックし、その後の学習につなげるためのまとめを行う。		
到達目標		
1. 実習の目的を理解し、実習課題を明確にする。 2. 実習施設について理解を深める。 3. 実習現場における記録の書き方を理解する。 4. 実習現場における体験をまとめ、報告する		
受講の心構え		
何もわからないところからスタートします。積極的に授業に参加し障がいの理解、施設理解につなげ、実習に向けての準備をする。実習後はしっかりと振り返りを行い自分の課題を明確にする。		
成績評価基準		
課題の提出状況、報告内容等で総合的に評価する。		
授業計画表		
1. 実習の意義・概要の説明。施設種別の理解 2. 資料配布・実習先希望調査 3. 実習施設の理解① 児童養護施設・児童発達支援センター 4. 実習施設の理解② 障がい者支援施設 5. 実習目標作成① 6. 実習目標作成② 7. 実習目標作成③ 8. 事前訪問について 9. 事前訪問 10. 実習記録の書き方 11. 2 年生との交流会 12. 実習に向かうにあつたてのマナー指導 13. 事後指導 実習報告書の作成 14. 実習報告会準備 15・16. 実習報告会 ※保育実習指導Ⅰ(福祉施設)8 回・保育実習対策Ⅰ(福祉施設)8 回を合わせて実習事前事後指導とする。		
使用テキスト・参考文献		
愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会『保育士を目指す人の福祉施設実習』みらい 社会福祉法人大阪ボランティア協会編集『福祉小六法』中央法規 東京大学大学院教育学研究科付属発達保育実践政策学センター『保育学用語辞典』中央法規		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習指導Ⅰ（保育所）保育実習対策Ⅰ（保育所）	16 回	30 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1.体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識技術を具体的に実践場面で活かすための態度や姿勢を理解し、実習準備を行う。 2.実習の振り返りを通して、今後の学習につなげ、自己課題を明確にする。 ※保育所指導Ⅰ(8 時間)と保育実習対策Ⅰ(8 時間)を併せて行うこととする。		
到達目標		
1. 実習の目的を理解し、実習課題を明確にする。 2. 保育所における計画や日誌の記述方法を身につける。 3. 実習生としての心構えを習得すると同時に、現場で求められるマナーや知識を得る。 4. 実習現場における体験をまとめ、報告する。		
受講の心構え		
現場で学ぶことのできる貴重な機会です。それに向けて基本的な知識を身につけていきます。課題も多くありますので、先の見通しを持ちながら積極的に参加しましょう。		
成績評価基準		
授業態度、課題への取り組み、提出状況、発表を総合的に評価します。		
授業計画表		
1, 実習の意義・目的・概要の説明／実習の手引きについて 2, 実習の手引きについて／保育所の役割・機能の理解 3, 夏休みの活動について／日誌の書き方（時系列） 4, 事前訪問について 5, 現職の方からの講話・交流 6, 実習園の理解 7, 事前訪問 8, 実習目標について 9, 実習日誌の書き方① 10, 事前集中指導①実習日誌の書き方について② 11, 事前集中指導②チェックリスト 12, 事前集中指導③諸注意 13, 事後集中指導①報告会準備 14, 事後集中指導②報告会準備 15・16, 実習報告会①②		
使用テキスト・参考文献		
・フレーベル館『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』 ・実習の手引き 毎回持参してください ・その他プリント配布		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	年次
こども福祉科 合同	1 年	演習
科目名	授業形態	授業回数
こどもとリズム表現Ⅱ	演習	8 回
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 幼稚園、保育園における領域「表現」の内容を学び理解する。 2. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助の方法を学ぶ。 3. 表現する力を育てるための手段を身体表現、音楽表現の分野から学ぶ。		
到達目標		
1. こどもの活動は様々な領域での知識、技術に関連させる必要があることを理解し、そのうえで保育者として表現する力を育てる必要性を実践から学ぶ。 2. 音楽基礎知識を深め、保育者として資質を高める。		
受講の心構え		
1. 自発性を引き出し、またグループ内での協調性を大切にして幼稚園教諭、保育士を目指して学習している目的意識を持って授業に臨む 2. 幼稚園・保育園で行なわれている手遊びやリトミックを学び、手遊び製作ブックをつくる。		
成績評価基準		
個人評価、グループ発表の評価 4 0 % 製作提出物 3 0 % 学習意欲、積極性、出席率 3 0 %		
授業計画表		
1. オリエンテーション 幼稚園・保育園で行なわれている手遊びやリトミックを学ぶ 2. 楽器の紹介、ハンドベル演奏会のチーム決め 3. ハンドベル演奏練習 4. ハンドベル演奏・発表 5. 手遊びブックの案だし・製作 6. 手遊びブックの製作 7. 手遊びブックの仕上げ 8. 手遊びブックの完成と発表と評価		
使用テキスト・参考文献		
小林美実『こどものうた 2 0 0』チャイルド本社 小林美実『続こどものうた 2 0 0』チャイルド本社		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こども学概論	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 洸太	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
こどもとは… どのような存在なのか、こどもを取り巻く環境と併せて考える。また、こどもの健やかな 育ちを願い、こどもの発達を遊び・環境を通して理解する。その上で、発達にあった遊びや環境構成を実際に 考え、実践することで、指導力を身に付ける。		
到達目標		
現代的なこどもの問題を考え、どのような環境が必要であるかを考える。また、こどもの成長とあそびの関 係性を考察し、遊びを通してこどもの発達を理解する。		
受講の心構え		
運動のしやすい服装。講義と演習を通して実践力を身につける授業です。 積極的に授業に参加して知識と 技術を身につけましょう。グループでの活動も多いので、協力して行ってください。		
成績評価基準		
提出物・授業態度・出席状況など総合的に評価する。		
授業計画表		
1. オリエンテーション こどもの理解 2. 環境の理解① 春の自然環境を知る。自然環境からこどもへのアプローチ 3. 遊びの大切さ、それに伴う保育者の対応の重要性を理解。 4. 発達特性からみた遊びの指導① 0・1・2 歳児の遊びの指導 5. 発達特性からみた遊びの指導② 3・4・5 歳児の遊びの指導 6. ねらいと内容 室内/戸外遊びと安全指導① 7. 環境の理解② 夏の自然環境を知る。自然環境からこどもへのアプローチ 8. ねらいと内容 室内/戸外遊びと安全指導② 9. ねらいと内容 室内/戸外遊びと安全指導③ 1 0. 環境の理解③ 秋の自然環境を知る。自然環境からこどもへのアプローチ 1 1. 日本の伝承遊び① 1 2. 日本の伝承遊び②～伝承遊びからみる現代のこども観～ 1 3. ねらいと内容 日本の伝統的な行事と園行事 1 4. 環境の理解④ 冬の自然環境を知る。自然環境からこどもへのアプローチ 1 5. 授業の振り返りとまとめ		
使用テキスト・参考文献		
授業時にプリントを配布いたします。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育制作 I	15 回	30 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
子どもの豊かな育ちのために、保育教材の目的やねらいを理解することが必要である。 保育教材を作成するにあたって基本的な技術や知識を習得し、制作方法を身に付けていく。 完成品をどのように表現、応用、展開するかを子どもの姿を想像しながら計画し実践する。		
到達目標		
・保育教材として使用される「エプロンシアター」「パネルシアター」「ペープサート」、実習で使用する「フェルトネーム」「自己紹介教材」を作成する。 ・作成のための技術や、演じるために必要な演技力、応用力、展開力を身に付ける。		
受講の心構え		
作品を制作するにあたって、準備は各自で行います。計画性を持ち、不足のないよう事前に用意しましょう。 また、提出期限厳守でお願いします。 子どもの前で演じること、子どもが楽しむ姿を考えながら楽しく意欲的に授業に参加しましょう。		
成績評価基準		
制作の計画性や取り組み、制作物の内容、提出状況で総合的に評価します。		
授業計画表		
1 オリエンテーション・授業計画／フェルトネームについて・デザイン作成 2 フェルトネーム作成 3 自己紹介作成 4 ミニ指導案について 5 パネルシアター作成① 6 パネルシアター作成② 7 パネルシアター作成③ 8 エプロンシアター作成① 9 エプロンシアター作成② 10 エプロンシアター作成③ 11 エプロンシアター作成④ 12 エプロンシアター作成⑤ 13 指導案について 14 実践発表会① 15 実践発表会②		
使用テキスト・参考文献		
中谷真弓『エプロンシアター型紙集』『エプロンシアター型紙集 2』乳幼児教育研究所		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと音楽表現Ⅴ	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
折笠美穂 田中智子	－	
科目のねらい		
保育の中には音楽を使った活動があります。表現活動をするためには器楽演奏やピアノの弾き歌いなどの技術が必要となります。ピアノ実技を中心に音楽に必要とされる基本的な知識と技術を学びます。		
到達目標		
ピアノを弾くために必要な楽譜を読む基本的な知識を学ぶ。あいさつのうた3曲（おはよう・おべんとう・おかえりのうた）を中心のこどものうたを弾けるようになる。歌詞を覚えて多くの曲を歌えるようになる。レパートリーを使い目標や進度を明確にする。		
受講の心構え		
ピアノの技術を学ぶ授業です。少しの時間でいいので毎日ピアノを弾く習慣を身につけてください。爪は伸びていると危ないので短く切ってください。 全員があいさつの3曲をひけるように練習をしてください。		
成績評価基準		
実技試験・授業態度（練習状況などを含めた総合評価）実技試験 80％・授業態度 20％		
授業計画表		
1. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に） 2. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に） 3. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に） 4. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に） 5. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に） 6. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に） 7. ピアノ実技の習得（あいさつの3曲を中心に） 8. まとめ 授業で取り組んできた成果を発表		
使用テキスト・参考文献		
小林美実編『こどものうた200』『続こどものうた200』チャイルド本社 必要に応じてプリントを配布		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
手話 I	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
河村 明子	－	
科目のねらい		
聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学びます。 外見では分かりにくい聴覚障害についての理解を深めながら、実際に聴覚障害者と接した時に適切な対応ができ、且つ積極的なコミュニケーションをとるための方法を学びます。		
到達目標		
1. 聴覚障害者への配慮と対応方法を学び、基本的な手話を習得・実践できる。 2. 聴覚障害者のコミュニケーション手段の 1 つである手話という言語を基礎から学び、初歩的な会話ができる。 3. 聴覚障害者の社会生活を理解できる。		
受講の心構え		
聴覚障害者が使う『手話』は目で見える言葉です。 手話を習得するために、講師の手話をよく見て表現しましょう。積極的に手話でコミュニケーションを取り、分からないことはすぐにたずねて理解を深めましょう。		
成績評価基準		
読み取り、レポート 8 0 % 授業姿勢 2 0 % を総合評価する		
授業計画表		
1. ガイダンス 聴覚障害者の基礎知識「聴覚障害者・コミュニケーションについて」 伝えあってみましょう「身振りで伝える」 2. 手話の基礎知識「手話について」 自己紹介をしましょう①「挨拶、自己紹介、家族」 3. DVD 鑑賞「聴覚障害者の生活を考える」 自己紹介をしましょう②「家族」 4. 自己紹介をしましょう③「数字、趣味」 5. 聴覚障害者の基礎知識Ⅱ「聴覚障害者の生活について」 自己紹介をしましょう④「仕事」 6. 時に関する手話 「会話してみましょう」 7. 自己紹介のまとめ「会話表現」 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「さっぽろの手話」公益社団法人札幌聴覚障害者協会 参考資料 「わたしたちの手話学習辞典Ⅰ」（一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局）		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
佐々木 尚代	－	
科目のねらい		
児童ソーシャルワークをベースとして、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、具体的な利用者対応、行事の企画、地域の関わりについて学び、児童館・放課後児童クラブの活動の理解を深め、実習に向けて基礎を身に着ける。		
到達目標		
1 児童館・放課後児童クラブを理解する 2 放課後の居場所として遊びの大切さを実践の中で体験する 3 実習に向けて理論の取得と子ども、保護者とかかわるための実践の準備を行う		
受講の心構え		
積極的な授業態度でかつ、わからないことは早めに解決しておくこと。 実習に向けて、理論的なことも身につけておく		
成績評価基準		
前期テスト 50%、レポート 20%、授業姿勢 30%		
授業計画表		
1. オリエンテーション 2. 児童館の概要と歴史 3. 児童館の課題とガイドライン 4. 児童館の根拠法令・財源 5. 児童館の施設規模・財源 6. 児童館機能（1） 7. 児童館機能（2） 8. 児童厚生員の役割 9. 児童福祉と健全育成 10. 放課後児童クラブについて 11. 放課後児童クラブガイドライン 12. 放課後児童クラブの活動と実際 13. 児童館のまとめ 14. 児童館の安全対策・危機管理・事故防止 15. 児童館・放課後児童クラブの課題と展望		
使用テキスト・参考文献		
児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ④ ソーシャル・ワーク 遊びの資料、関連する新聞記事など適宜		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法 I	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
白谷 臣子	－	
科目のねらい		
児童厚生員にとって、ソーシャルワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの活動や、行事の企画、利用者への対応、地域とのかかわりなどについて学ぶことは必要不可欠です。実習に向けて、児童館・放課後児童クラブの活動を理解するとともに実習現場で活用できる実践活動を学びます。		
到達目標		
1 児童館・放課後児童クラブの役割や活動を理解する 2 子どもにとっての遊びの大切さを理解するとともに遊びを体得する 3 子どもや保護者等利用者とのかかわりの大切さを理解し、実習での実践へとつなげる		
受講の心構え		
子どもとかかわる上で重要な遊びに興味を示し、積極的に授業に臨むことを期待します。 また、実習に向けて目標を持ち、創意工夫した活動を期待します。		
成績評価基準		
授業姿勢 50%、実習姿勢およびレポート 30%、テスト 20%		
授業計画表		
1. オリエンテーション 2. 児童館の目的と活動について 3. 育成概論・子どもにとっての遊びの大切さについて 4. 児童館活動のための手法・技術 (1) ソーシャル・ワーク 5. 児童館活動のための手法・技術 (2) グループ・ワーク 6. 児童館活動のための手法・技術 (3) グループ・ワークの実践① 7. 児童館活動のための手法・技術 (4) グループ・ワークの実践② 8. 児童館活動のための手法・技術 (5) 遊びの重要性 9. 児童館活動のための手法・技術 (6) 集団遊び 10. 児童館活動のための手法・技術 (7) 遊びの企画 11. 児童館活動のための手法・技術 (8) グループ・ワークの実践③ 12. 実習に向けて・子育てサロン・中高生夜間利用等児童館活動について 13. 実習の振り返り 14. 児童会館の理解・まとめ 15. 児童厚生員に求められること・今後に向けて		
使用テキスト・参考文献		
児童会館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論 児童会館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論 児童会館・放課後児童クラブテキストシリーズ④ ソーシャル・ワーク		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年	実習
科目名	授業回数	授業時間
児童館実習		10 日間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1, 実習を通し、児童館の役割や支援の実際、児童厚生員の職務について学ぶ。 2, 子どもたちとの遊びやふれあいを通し、子どもの発達における「遊び」の大切さを知り、遊びを支援する時に求められる視点と技術を学ぶ。 3, 様々な子どもや家庭とのかかわりを通し、コミュニケーションの方法や臨機応変な対応の方法を学び、子どもや保護者、地域のニーズ、支援について学ぶ。		
到達目標		
1, 児童館・放課後児童クラブの実習を通して、実際に業務を体験することで、児童館・放課後児童クラブの機能・役割と具体的な活動について理解する。 2, 児童厚生員の職務を理解する。		
受講の心構え		
謙虚な姿勢で実習に臨んでください。		
成績評価基準		
実習出席状況、実習評価、提出物を総合的に評価		
授業計画表		
○実習期間 2023 年 1 月 23 日～2 月 4 日の中で 10 日間 ○実習施設 札幌市内の児童館 1, 児童館の役割と機能 2, 児童館における活動、支援の実際 1) 児童館の 1 日、1 週間の流れを理解する 2) 児童館のプログラム活動やイベント、遊び、子どもたちとのかかわりを通して子どものニーズを理解する。 3) 児童館のプログラム活動やイベントの企画の目的を理解し、立案の仕方を学ぶ 4) 職員の講話や指導のもとに、子どもの個人差や生活環境に合わせた子どもへの支援方法を学ぶ 5) 子育て家庭・家族への支援と対応の理解を深める 3, 児童厚生員、保育士の多様な業務内容と職業倫理への理解を深める		
使用テキスト・参考文献		
せいとく介護こども福祉専門学校 実習の手引き		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年	講義
科目名	授業回数	授業時間
国語総合演習Ⅰ	8 回	15 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい		
自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。また、いろいろな様式の文章に触れ、目的に合った文章を理解したり、書いたりする。		
到達目標		
字形を整え、丁寧に文字を書くことが出来る。語彙を増やし、使用することができる。いろいろな様式の文章を書くことができる。		
受講の心構え		
伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。		
成績評価基準		
まとめの試験 60％ 小テスト 20％ 授業姿勢 20％		
授業計画表		
1. ひらがな、カタカナ、よく使う字について練習する。愛読書について。 2. 個人票の様式を知り、作成する。 3. 封筒の宛名、差出人の住所、名前をバランス良く書く。礼状の書き方。 4. 同音異義語などについて理解し、練習する。目的に合った文章を書く。 5. 同訓異義語などについて理解し、練習する。目的に合った文章を書く。 6. 慣用句、専門用語の正しい理解と使い方を知る。 7. 四字熟語が読めて、意味を知る。ことわざについて知る。 8. ことわざについて知る。		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年	講義
科目名	授業回数	授業時間
応対論 I	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
三品 あおい		
科目のねらい		
この科目では社会人としての信頼の土台であるマナーを身につける。 実習に入った際に実践できる、気持ちの良い挨拶・表情・身だしなみや敬語・電話応対等を身につける。		
到達目標		
「挨拶」「身だしなみ」「言葉づかい（敬語）」と言った、社会人として必須・基本的なことを日々の学校生活から実践する		
受講の心構え		
応対論は社会に出る前の練習の場であるので、授業で学んだことを積極的に実践して習慣にしましょう。 挨拶や敬語などマナーは他の教科や日常生活でも身につきます。欠席した場合は、次の授業で支障がないように、事前に他の学生のノートやテキストで確認しましょう。		
成績評価基準		
筆記試験 2 5 % ・実技試験 2 5 % ・平常点（授業での取り組み 5 0 %）の総合評価		
授業計画表		
1.円滑な人間関係を築くためのマナー・ヒトの第一印象について考える 2.好感を持たれる保育者になるための基本マナー（挨拶・お辞儀等） 3.正しい言葉づかい（敬語）等 4.保育者に求められるマナーとは（守秘義務・SNS 等） 5.保護者により良い関係を築くためには（来客応対・訪問・電話応対等） 6.保育者の職場でのマナー（報連相・整理整頓等） 7.社会で役立つマナー（冠婚葬祭・食事のマナー・お礼状等） 8.まとめ・試験		
使用テキスト・参考文献		
長島 和代『これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉』わかば社		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
就職ガイダンスⅠ	2 回	4 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
自分の将来を創造する 卒業生の就職活動体験などの見聞を通じ、自身の進路選択を想像する。 希望する進路の実現のために、自分自身に不足しているものは何か知り、内定に向けた取り組みが実践できる。		
到達目標		
1. 進路（希望施設・種別・地域など）について考える。 2. 卒業生の就職活動体験を参考に、就職に対する主体的意欲を持つ。 3. 希望進路実現に向けた、計画的な取り組み、具体的行動を考える。		
受講の心構え		
どこで働きたいかイメージすることで、いつ・どこで・何に取り組むのか明確にして、希望進路の実現を目指しましょう。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする		
授業計画表		
1 就職ガイダンス オリエンテーション 進路希望調査と就職に関する疑問調査 2 就職座談会 ～ 卒業生の体験談をもとに自分の将来をイメージする		
使用テキスト・参考文献		
学校資料配布		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	1 年	実習
科目名	授業回数	授業時間
児童館実習指導	3 回	
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
・実習に向けて、児童館・放課後児童クラブの機能と役割、職員の業務内容、子どもの活動内容についての事前学習を行い、実習目標の設定につなげる。 ・実習で学び得たことを整理し、地域の子どもの居場所や集団についての理解を深める。		
到達目標		
1.児童館・放課後児童クラブの概要と実習施設の情報を把握する。 2.子どもの活動内容を知り、事前知識を学ぶ。 3.実習目標の設定および実習に向けての抱負をまとめる。 4.指導計画（チャレンジプログラム）の準備をする。 5.実習後レポートと体験発表をする。		
受講の心構え		
子どもの前で遊びを展開していくことを想定し、前向きに取り組んでください。		
成績評価基準		
授業態度、報告内容、提出物を総合的に評価します。		
授業計画表		
1.実習個人票作成、配属児童館の概要及び情報収集、子どもの活動の実践練習 2.実習目標と抱負の作成、指導計画（チャレンジプログラム）の作成 3.実習レポート作成、実習体験報告会		
使用テキスト・参考文献		
児童館実習の手引きは毎回持参すること。 こどものあそびについて、どのようなものがあるのか調べることは必要です。		